

ある日、お母さんからこんなことを言われた。

「ゆうなのかみの毛はきれいだから、ヘアドネーションをしてみたかどうか？」

初めてヘアドネーションという言葉聞いた時、

「ヘアドネーションって何？」

とは思った。全く想どころができない言葉だった。お母さんが教えてくれたのだが、それは病気でかみの毛をなくしてしまった子に、かみの毛をきふするというものらしい。お母さんに教えてもらった後、私自身でも自主学習でヘアドネーションについて調べてみた。小児がんな子どもたちは治りようでかみがぬけてしまう子が多く、その子たちのかつらに使うかみの毛を集めていること、一つのかつらを作るのに三十人から四十人のかみの毛が必要なこと、長くきれいなかみの毛でないとかつらには使えないことなどが調べ学習で分かった。

私はそのことを知って、ヘアドネーションにしようせんしように思った。私のかみの毛がだれかのためになるのなら。

「でも、もう少しかみをのばしてから切った方がいいんじゃない？」とお母さんが言うので、私はそのままもう少しのばすことにした。

しかし、かみをのばすと言っても楽ではない。シャンプーを使っ

た後、ドライヤーでかわかさないといけない。なんと、二十分から三十分もかかってしまうのだ。これが毎日だからいやになる。さらに、私は陸上をしているので、動くときにはかみが重いし、暑いのです。早く切りたくてしかたがない。そんなふうに、苦勞してかみをのばす日々。かみが長いといつもからまってしまい、かみをとかすのも一苦勞。ついに、かみを切る日になった。その日は、朝起きたしゅん間から、

(今日のかみをきる日だ！)

はしゃぐ気持ちがおさえられなかった。重くて、暑くて、からまる……。私の心も重くしていたかみの毛。それをやっとなんか切ることができる。新しい私が始まる予感がする。

かみを切ってもらうのは、小さいころからお世話になっている美ようしさん。

「きれいなかみだから、なんだかもつたいないね。」

と言っていたが、私は早く切りたくてしかたがない。

チヨキチヨキ……………

チヨキチヨキ……………

私のかみの毛がどんどん切られていく。私の今までの苦勞もなくなっていく。頭がどんどん軽くなる。鏡の前の私は、もうさつきまで私じゃない。

切った後のかみの毛をふくろに入れて、持たせてくれた。なんだか思った以上に重くてびっくりした。

「かみの毛ってこんなに重いんだ。」

この重さは、きつとただの重さじゃなく、私の思いも入っていると思う。

帰って、お母さんといっしょにかみの毛をふうとうに入れて送るじゅんぴをした。ふうとうに入れるとき、私は、病気で苦しむ子どもたちのことを考えていた。

「一人でも多くの子どもたちが笑顔になりますように。」

そう思いをこめて、かみの毛を送った。

きつと、私のかみの毛は、病気で苦しむだれかのかみの毛になっているはず。きつとその子の笑顔になっているはずだ。

私のかみの毛。あんなに重く、つらかったかみの毛。そのかみの毛が他の人の役に立つのなら、あのつらさもむだではなかった。ヘアドネーションは『おもい』のやりとりかもしれない。